

避難生活の環境変化に対応した支援の実施に関する検討会 とりまとめ（概要）

- 近年の災害では、在宅や車中泊等で避難生活を送る避難者等が多く存在しているほか、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて分散避難の取組が進むなど、避難者等の避難生活を取り巻く環境は大きく変化している。
- また、避難者の支援を全て行政職員が担うことには限界があるため、避難者等の支援に取り組む民間団体との連携が必要である。加えて、近年自宅等で災害関連死が多く発生していることや、今後南海トラフ地震等の大規模災害ではさらなる被害が想定されることから、これら避難所以外に避難する者の状況把握や支援方策の検討は喫緊の課題である。
- このため、内閣府では、「避難生活の環境変化に対応した支援の実施に関する検討会」を設置し、8回に渡り議論を行い、その成果をとりまとめた。

避難生活に係る基本的な考え方

<「場所（避難所）の支援」から 「人（避難者等）の支援」への 考え方の転換>	<官民連携による被災者支援>	<平時・生活再建フェーズとの 連続性の確保>	<デジタル技術の利活用>
--	----------------	---------------------------	--------------

具体の取組

- | | |
|-----------------------|---|
| 避難者以外の避難者等の
支援の枠組み | ・ 危機管理、医療、保健、福祉、住宅、教育、住民制度など関係部局、民間支援団体が連携しつつ、避難者等の状況把握、避難所の運営や環境改善、在宅避難者等の支援等の被災者支援の業務を一元的に担う体制の構築を促す。 |
|-----------------------|---|

避難者等の状況把握

- 【考え方】
- 発災直後から関係者が連携して避難者等の状況把握を行う。支援漏れを防止するため、状況把握を行う主体間の連携体制について平時から検討する。
- 【主な取組】
- 状況把握を行う主体の連携体制の整備
 - アウトリーチを行う際の優先順位の検討
 - 関係者が共通して使用する調査項目の検討
 - 被災者自ら情報発信を行う仕組みの構築

避難所以外の避難者の支援拠点

- 【考え方】
- 在宅避難者等についても、避難所の避難者と同様に必要な支援を受けられるよう、支援拠点の設置や支援内容について平時から検討する。
- 【主な取組】
- 被災状況や避難所の状況等に応じて、在宅避難者の支援拠点を設置
 - 機能に応じて自治会レベルの拠点や広域の拠点など様々な規模の支援拠点の設置を検討
 - 支援拠点で食事や物資の支援、情報提供を実施

車中泊避難者の支援

- 【考え方】
- 災害時には、やむを得ず車中泊避難を行う避難者等が一定程度発生することを想定し、地域の実情に応じた支援方策について平時から検討・準備する。
- 【主な取組】
- 住民への車中泊避難の注意点等の広報
 - 車中泊避難を行うためのスペースを平時から検討・公表
 - 水・食料に加え、弾性ストッキング等を備蓄・配布
 - 保健師等と連携した健康管理を実施

平時からの取組

- ・ 在宅や車中泊避難者に対する支援について防災計画等への位置づけ。地域コミュニティの取組については地区防災計画の活用も効果的。
- ・ 災害協定の締結等を進めるとともに、支援に関わる多様な主体を巻き込み、在宅避難者や車中泊避難者の支援に係る訓練を実施。
- ・ 平時における地域資源を災害時の支援拠点としても活用。
- ・ 地域の防災力を向上させる取組を通じて自助・共助による支援能力を涵養するなど避難生活支援に携わる人材を育成。

【別冊】被災者支援に関するアンケート調査結果（全国の都道府県及び市町村に対し、在宅避難者や車中泊避難者の支援に関するアンケートを実施）
⇒多くの自治体が在宅避難者や車中泊避難者の支援の必要性を認識していると回答する一方、取組が進まない理由として、①制度上の位置づけの不明瞭さ、②ノウハウの不足、③人員不足等が指摘された。